

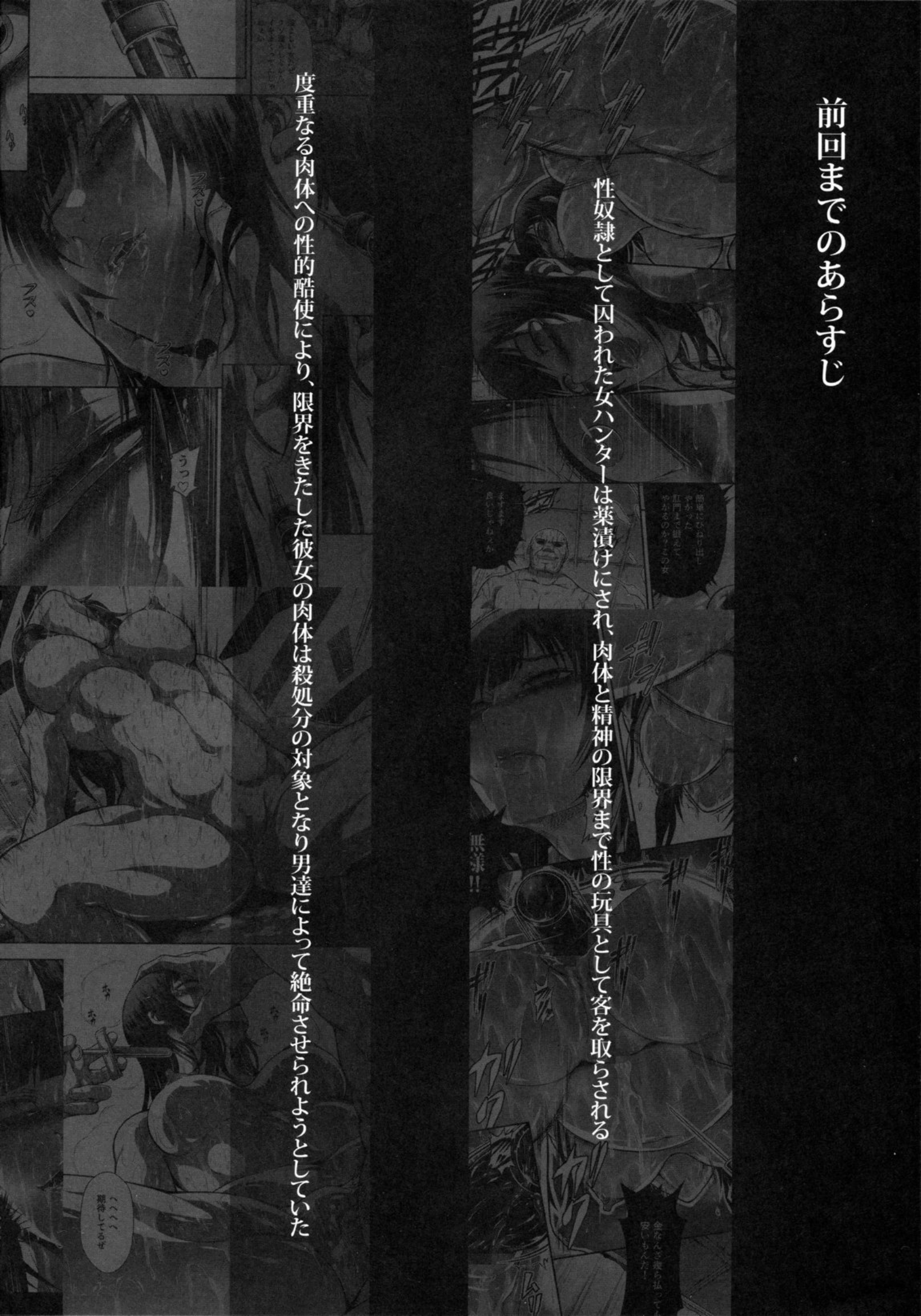


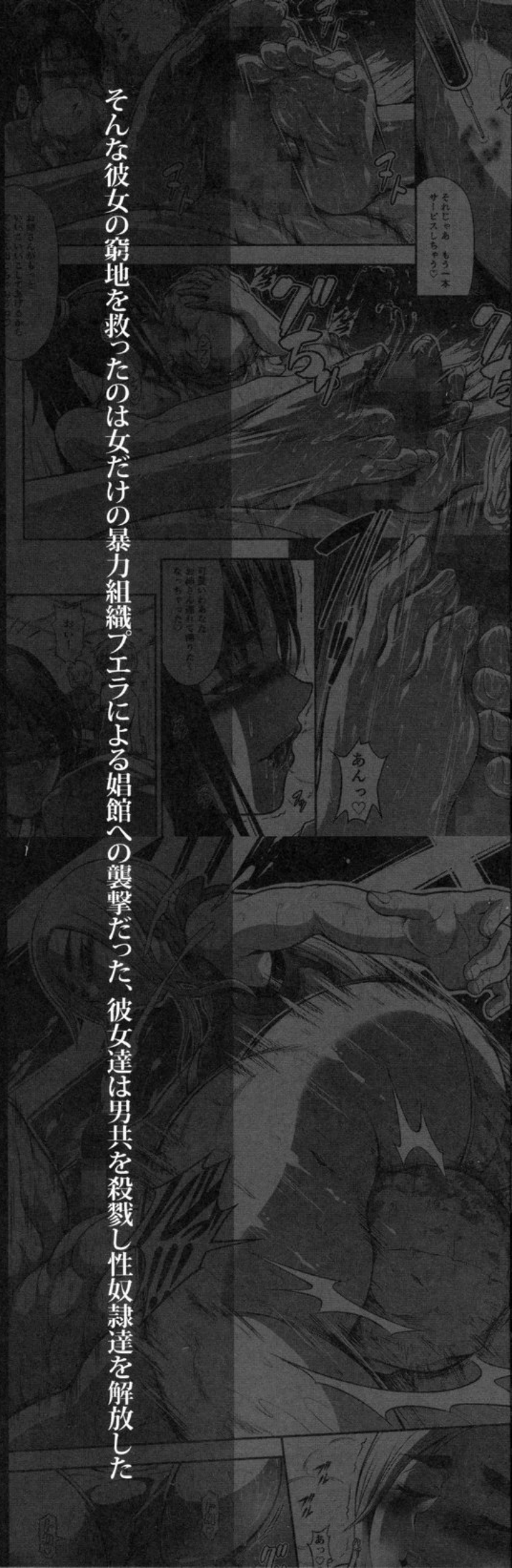


前回までのあらすじ

性奴隷として囚われた女ハンターは薬漬けにされ、肉体と精神の限界まで性の玩具として客を取らされる

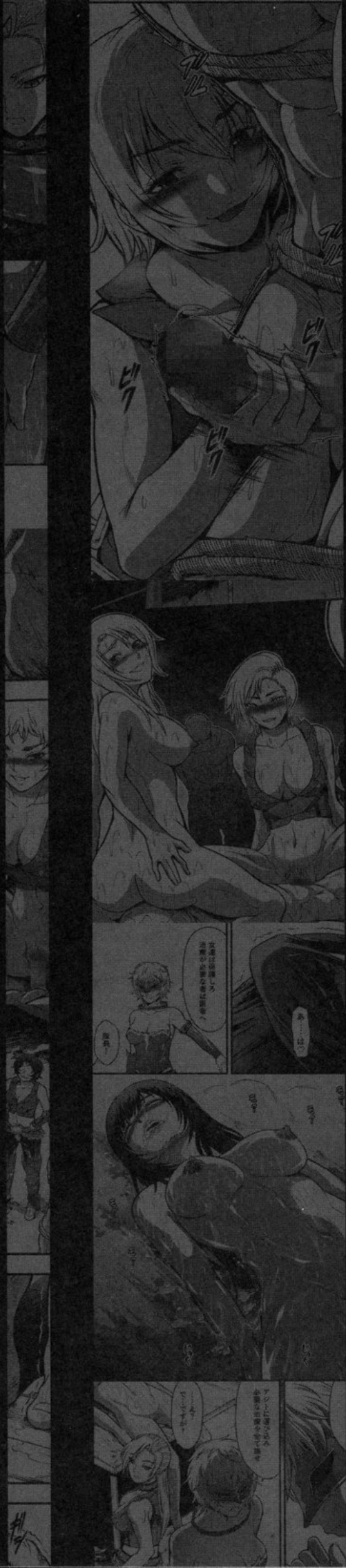
度重なる肉体への性的酷使により、限界をきたした彼女の肉体は殺処分の対象となり男達によって絶命させられようとしていた





そんな彼女の窮地を救ったのは女だけの暴力組織プエラによる娼館への襲撃だった、彼女達は男共を殺戮し性奴隷達を解放した

プエラの女達は圧倒的な力を持って男共を性欲の赴くがままに蹂躪し、犯し尽くしてはトドメを刺してゆく



その最中、死の淵に居た女ハンターはその強靱な肉体をプエラの隊長に気に入られ、本拠地へ連れられ手当を受ける

プエラの本拠地で目覚めた女ハンターは女達の要塞からの脱出を試みるが女隊長に発見されてしまう



『強者が望む物を手にする』

そのシンプルなプエラの理念を女ハンターに突きつけ、女隊長は女ハンター自身を求める

そして二人の強者による一対一の戦いが開始されたのだった



なかなか良い状態だ
250ゼニーってところだな



ここは新大陸だぞ
相場ってもんが
あるんだぜ？お嬢ちゃん

えー!?
本国の4分の1じゃない
足元すぎでしょ!!



売り物に傷付けんじゃねえ!
買い取れるかこんなもん!!



これでどうだ!!

私達の
サイン入り
上位素材よ!



こうなったら
最後の手段よ!

おおい!





あ

あ



気を失っていた!?
いったいどのくらい?!

股関節は外れていない
さっきのは夢……か?

覚醒と共に肉体の感覚が
一気に押し寄せてくる



だが
性の快感だけは
自分の意志で制御
する事が出来ない

……いや
「できなく」されている

キツイが肉体への負荷は
耐えることができる
簡単に破壊
されることはない



私の性感帯は既に
この女に掌握されて
しまっている

何処を愛撫すれば簡単に
私をイカせる事が出来るのか
どうすれば私の性感を
高めることが出来るのか

タフな肉体だ
気に入ったぞ

私の腫の微細な反応から
全てを見透かされて
しまっている

その証拠に意識を
失った瞬間に見た夢は
この女になすがまま
陵辱される夢だ

そしてそれは
女の悦びに満ちていた
心の奥底がそうされたいという
欲求に支配された

この女は危険すぎる
性の悦びだけで
たったそれだけで
人間を支配することが
できるのだ



この女を肉体に
触れさせてはいけない
早くこの状況を
抜け出さないと
私は確実にこの女の
下僕にされてしまう



ああ……また
私が限界を迎える瞬間
最も絶頂を望んでしまう瞬間
それを狙ってこの女は
私をイカせるのだ

もし私が快楽に屈して
力を抜いてしまえば
勝負は決する。股関節を外して
抵抗出来なくなつた
私を性の玩具として
心ゆくまで陵辱すれば良い

この女は
私の「強度」を
試しているのだ

イカされたい♡
ダメだ!

このまま
身を任せて♡

快楽に支配されるな!

気持ち良くなりたい♡

破壊されたい♡
屈するな!

戦え!



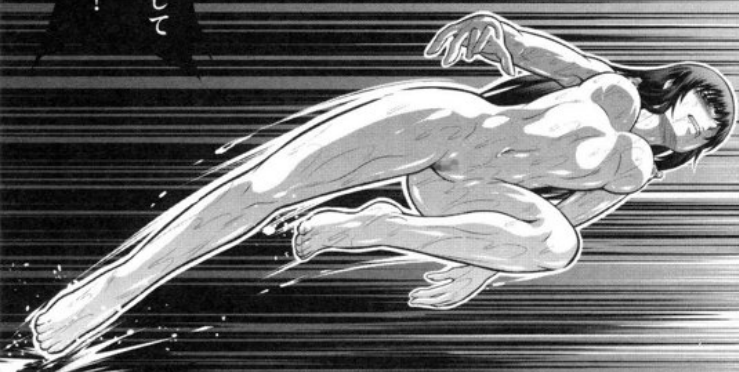


TO THE



快感に身を任せるな！
肉体から快楽を切り離せ！

どれだけ精神が陶醉して
しまおうが肉体に
伝えなければ戦える！




肉体の闘争に任せれば
絶頂しながらでも
この女を仕留められる！！





素晴らしい身体能力だ
精神力も強く状況判断も
的確だ 合格だよ



だが 想像力と観察力が
少し足りないかな
実に惜しい

なんだコレは!?





理解出来たか？



例えばあの男への尋問



本国からの客人が
作ってくれている物だが
長さも太さも自由に
変えられるのだよ



精神を犯すあの針は
私のお気に入りだね



そう
目に見えぬほどの細さに
する事も可能なわけだ

既にお前の体には
無数の針を仕込んでいる



気付いていたのなら
振り払うことが
できていただろうさ



だが



もう手遅れだ





だめだ
まともな思考が出来ない
快樂の事しか考えられない

ツヨツヨ

肉体の苦痛すら
快感を高める為の
スパイスになっている

体は勝手に攻撃を受け入れ
快感を高めようとする

相手に打ち勝つためではなく
痛めつけられる事で
興奮を得ようと動いてしまっている



首は……!!
ダメだ……!!

ぎっ♡



これほどの快樂なのに
最期の一戦を超えられない
もどかしさ

このままでは
いつか狂ってしまう



そうすればお前は解放される
お前の肉体から至高の性の快樂を
引き出してやろう

ああ……いい……♡

もう解放してくれ……

いい……♡

この幸福感のまま
逝かせてくれ……



登りつめたいだろうか?
私に忠誠を誓え

敗北を認めて
私への服従を受け入れろ

脳に……酸素が……回ら……なく……♡

か♡

か♡

呼吸が……でき……ない……♡



……る



軍門に降る……



いい子だ

だから……
逝かせて……くれ……



お前には私の獵犬として
働いてもらおう

フチフチ

フチフチ

近づく

近づく

私の与える快楽
そして慈悲を
肉体に刻み込め

安心しろ一気に
引き抜いたりはないさ
いくらお前でも
殺してしまうからな



お前は私の命令にだけ従え

私に仕える喜びを心に刻め

私に触れられる喜びを

私に弄ばれる喜びを

私にイカされる喜びを



からだ
肉体に

こころ
精神に

深く刻み込め



私に敗北する幸福を



ほじ♡

ほじ♡

ほじ♡

まともな思考が出来なくなっているようだな量が過ぎたか？

私の目測より遙かに快感を得やすい肉体のようだ……どうなっているんだ？



壊れてくれるなよ私が抱きたいのは快楽で壊れた肉人形ではないんだ

ハヒッ♡

ヒッ♡

ハヒッ♡

残り10本か……



そうだなここでこの女の命運を計るのも一興か

死ぬんじゃないぞ





さてどうかな？

生きて
いるか？



それとも
死んだか？

TO BE CONTINUED

ソロハンターの生態 WORLD 9



発行 YokohamaJunky

発行者 魔狩十織

発行日 2023.8.13

印刷 ねこのしっぽ

web <http://yokohamajunky.com/>

email mail@yokohamajunky.com

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及び各種設定も一切関係ありません

尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です

ソロハンターの生態9
WORLD

presented by Yokohama Junky